の史跡は江戸時代の単なる城跡ではありません。

まず、立地している久松山があります。その久松山中には中世から羽柴秀吉の鳥取城攻略ごろまでに築かれた、多数の中世城郭の遺構群が残されています。飛び地指定している太閤ヶ平もこの一群に入ります。

これらの、性格の異なる文化財が、中世から近世へと時代を追って、久松山一帯に連続して存在しているのが、鳥取城跡の特徴です。

「日本名城100選」に選定

このたび、㈶日本城郭協会が行った「日本名城100選」に、鳥取城が選ばれました。選定の基準は、優れた文化財・史跡であること、著名な歴史の舞台になっていること、また、時代や地域を代表することで、お城の歴史を考えるうえで重要なものです。ほかに選定されたのは、世界遺産である姫路城、松江城などの近世の著名な城郭から、西洋式の五稜郭、琉球王国の首里城など、時代と地域を代表する多彩な名城です。

明確にされていない謎を多くもっている

しかし、残念なことにそれらの遺跡について、明確に分かっていることは、実は驚くほど少ないのです。

中世の城郭について言えば、個人の研究者による調査など、いくつかの成果は残されているものの、それぞれの調査の全体的な把握が行われていないのが現状です。また、近世の鳥取城に関しても、これまで『因幡民談』[※2]や『鳥府志』[※3]などの江戸時代の文献の記述が、そのまま定説として語られてきた面があります。

実際に石垣の修理などを行ってみると、それとは矛盾する遺構が発見されることがあります。たとえば、平成16年度に天球丸（鳥取西高校の上の曲輪）の石垣を修復するために解体した際には、解体した石垣の下から櫓台らしき石垣が発見されました。この石垣は関ヶ原の合戦[※4]前後の様式をもっており、解体した石垣よりも明らかに古いものでした。従来、天球丸は関ヶ原合戦後、城主となった池田長吉[※5]によって造営されたものと考えられてきましたが、この発見によって、現在にいたるまでに、大きく改造が加えられていることが明らかになったのです。

このように、近代の修理事業によるものを除き、現在残されている鳥取城の石垣が、それぞれどの時代に完成したものかさえも、まだ明確にされていないのが現状です。

現在までのところ、市教育委員会の調査では、池田長吉が造営してから幕末の廃城までの間に、少なくとも7回の変更があったと理解していますが、まだまだ不明な部分の方が多く、鳥取城の真の姿は、未だ完全には明らかにされていません。

天球丸で発見された古い石垣

鳥取城の魅力を明らかにし、磨く基本計画

市民の財産であるとともに、国指定史跡として我が国の歴史遺産でもある鳥取城の整備は、このような鳥取城の学術的価値を明らかにし、同時に魅力を磨き上げるためのものでなければなりません。

用語注釈

※1 羽柴（豊臣）秀吉（はしば（とよとみ）ひでよし）　天文5年（または6年）（1536または1537）～慶長3年（1598）

※2 因幡民談　鳥取藩の侍医小泉友賢（1622～1691）の著。因幡国の歴史書・地誌。

※3 鳥府志（ちょうふし）　鳥取藩士岡嶋正義（1784～1859）の著で、江戸時代の鳥取城下町に関する地誌。

※4 関ヶ原の合戦　慶長5年（1600）に発生した、石田光成を中心とする西軍と徳川家康を中心とする東軍の戦い。この後、徳川家康の支配力が強まり、江戸幕府の開府につながっていく。

※5 池田長吉（いけだながよし）　元亀元年（1570）～慶長19年（1614）池田輝政の弟。関ヶ原の合戦後、6万石を与えられ鳥取城主となった。